

平成 22 年度事業報告

自 平成 22 年 4 月 1 日
至 平成 23 年 3 月 31 日

1. 全体景況

政府発表によれば、平成 22 年度の我が国経済は、同年秋から足踏み状態にあるが、今後は踊り場を脱する動きが進むと見込まれる。平成 22 年度の国内総生産の実質成長率は、3.1%程度と 3 年ぶりのプラス成長が見込まれる。

2. 鑄造業界

- (1) 鑄造業の平成 22 年（2010 年）の生産金額（ダイカストを除く）は、1 兆 2,725 億円、対前年比 26.1%増と大幅に回復したが、直近のピークである平成 20 年の 80%程度の回復に止まっている。
- (2) 代表業種である銑鉄鑄物の生産金額は、7,351 億円、同 33.8%増、生産量で 4,045 千トン、同 23.6%増と前年の同 40%減から大きく回復したが、生産金額・量ともに 80%程度の回復に止まっている。ピーク時と比較すると生産量で約 120 万トンの需給ギャップを抱えている状況にある。
- (3) 非鉄金属鑄物（ダイカストを除く）の生産金額は、銅合金鑄物が 957 億円、同 14.1%増と回復したが、ピーク時の 72%程度に止まっている。アルミニウム鑄物は 2,633 億円、同 30.0%の回復で、ピーク時の 82%の回復であった。
- (4) 原材料の動向は、平成 22 年秋から平成 23 年春にかけて鉄スクラップ、銅地金、アルミニウム地金をはじめ、大幅な上昇傾向を示した。

表 1. 鑄造品の生産額推移

単位：億円、%

平成(年)	銑鉄鑄物	鑄鋼	銅合金	アルミ鑄物	精密鑄造品	ダイカスト
13(2001)	6,362(88.6)	1,412(102.5)	695(99.1)	2,643(91.8)	493(104.7)	4,337(93.2)
14(2002)	6,176(97.1)	1,257(89.0)	673(96.8)	2,691(101.8)	449(91.1)	4,649(107.2)
15(2003)	6,505(105.3)	1,219(97.0)	745(110.7)	2,557(95.0)	397(88.5)	5,062(108.9)
16(2004)	7,215(110.9)	1,223(100.3)	833(111.8)	2,601(101.7)	439(110.4)	5,509(108.9)
17(2005)	7,888(109.3)	1,434(117.3)	823(98.8)	2,790(107.3)	463(105.5)	6,000(108.9)
18(2006)	8,295(105.2)	1,596(111.3)	1,147(138.5)	3,072(109.2)	472(101.9)	6,751(112.5)
19(2007)	8,701(104.9)	1,749(109.6)	1,325(114.8)	3,203(105.5)	537(113.8)	7,317(108.4)
20(2008)	9,103(104.6)	1,865(106.6)	1,291(97.5)	3,085(96.3)	600(111.7)	6,968(95.2)
21(2009)	5,496(60.4)	1,248(66.9)	839(65.0)	2,074(67.2)	435(72.2)	4,434(63.6)
22(2010)	7,351(133.8)	1,308(104.8)	957(114.1)	2,633(127.0)	512(117.6)	5,762(129.9)

注 1. 銑鉄鑄物には、鑄鉄管、可鍛鑄鉄を含む。

注 2. () は、対前年比

表 2. 鉄鋳物の生産量推移 単位：千トン、%

平成(年)	合 計	銑鉄鋳物	鋳鉄管	可鍛鋳鉄	鋳鋼
13(2001)	4,548(92.1)	3,632(90.8)	564(97.2)	93(94.9)	259(98.1)
14(2002)	4,391(96.5)	3,602(99.2)	477(84.6)	80(86.0)	232(89.6)
15(2003)	4,702(107.1)	3,803(105.6)	583(122.2)	81(101.3)	235(101.3)
16(2004)	4,890(104.0)	4,102(107.8)	453(77.7)	77(95.1)	258(109.8)
17(2005)	5,045(103.2)	4,299(104.8)	403(88.9)	66(85.7)	277(107.4)
18(2006)	5,217(103.4)	4,425(102.9)	445(110.5)	56(84.9)	291(105.1)
19(2007)	5,259(100.8)	4,484(101.3)	416(94.1)	54(94.7)	304(104.5)
20(2008)	5,108(97.1)	4,315(96.2)	434(104.3)	48(88.9)	310(102.0)
21(2009)	3,272(63.8)	2,614(60.6)	405(93.2)	37(77.4)	207(66.8)
22(2010)	4,045(123.6)	3,468(132.7)	320(79.1)	40(106.2)	217(105.2)

※注 () は、対前年比

II. 協会活動の概要

本年度は、鋳造産業ビジョン第2期（平成22～24年度）の第1年度として、アクションプラン2010に基づいて①事業継続と健全な経営、②技術開発による商品開発力の向上、③人材育成の充実、④グローバル化、⑤環境・エネルギー対応に関する課題を重点項目として事業計画を作成し、協会活動を推進した。本年度の主な事業概要は次の通り。

1. 本年度の生産動向は回復傾向にあるもののピーク時の80%程度に止まっているため、前年に引き続き政府による資金繰り施策や雇用維持施策に関する施策情報をメールを活用して迅速に提供して会員企業の資金繰りや雇用確保等を支援した。また、M&Aや転廃業による競争力の強化の一環として、事業承継やM&Aに関する講演会を実施した。
2. 政府が推進する再生可能エネルギー全量買取制度や環境税の導入等の環境規制は、電力多消費産業である当業界に多大の影響を及ぼし事業の存続をも危うくする恐れがあるため、会員への意識啓蒙を図るとともに、日本鉄鋼連盟他の関係団体との連携により政府関係機関へ電力多消費産業に対する負担軽減措置の導入を要請した。
3. 平成22年春の鋳物銑の値上げや秋以降の鉄スクラップの高騰によるコスト増転嫁等の適正取引推進のため「原材料高騰に対するお願い文書」を会員宛に発行した。
4. 平成22年秋に発生した中国のレアアース輸出規制による国内レアアース需給逼迫に関して「レアアース入手困難に対するお願い文書」を発行するとともに、平成23年1月にレアアース代替・削減技術講習会を東京で開催し、195名が参加した。
5. 施策・税制要望として、①再生可能エネ、③円高対策、④法人税の引き下げ、⑤中小法人及び中小企業組合の軽減税率引き下げ、⑥環太平洋戦略的経済連携協定（TPP）への参加要請を民主党、自由民主党へ要望した。
6. 技術開発では、8月に平成22年度の戦略的基盤技術高度化支援事業（サポイン委託）を1件受託し、これまでの受託事業と併せて4件の研究開発を推進するとともに、終了した5件の開発成果の普及を推進した。

7. 10月にアクションプラン2010の重点項目「環境とエネルギー対策の強化」に対応するため環境部会を設置し、技術部会の一分野として取り組んできた環境問題を専門的に推進することとした。「粉じん防止、省エネ、廃棄物低減対策として人工砂の導入を促進するために、2年間の活動期間で人工砂委員会を立ち上げた。
8. 人材育成では、将来の鋳物工場の経営者や工場長の育成を目指した鋳造カレッジを関東、中部、中国・四国地区の3か所で開催した。今年度から鋳鉄コースに加えて銅合金コース、軽合金コースを開始して合計82名が受講し、全員修了した。当協会が認定する鋳造技士は4年間で累計283名を認定するに至った。
9. 新入社員を対象とした新人教育研修プログラム（鋳鉄コース）を受講生30名により4月から6ヶ月間実施し、併せて平成23年度から実施するアルミニウム合金コースの作成を行った。
10. 5月に総会に併せて春季大会を東京で開催した。10月に秋季大会を札幌市で日本鋳造工学会と合同開催した。1月に新年賀詞交歓会に併せて新春講演会を開催した。2月に若手経営者全国大会を姫路にて開催した。非鉄分野の交流促進を目的とする非鉄情報交換会として、5月は東京で講演会、11月に名古屋で講演と工場見学会を開催した。
11. 国際交流は、ドイツ鋳造協会、中国鋳造協会、韓国鋳物工業協同組合、インド鋳造協会、アメリカ精密鋳造協会、欧州精密鋳造協会他との交流を行った。
12. 国際会議は、5月に中国北京にて第1回アジア鋳造フォーラム、ポーランド・クラコフで第27回欧州精密鋳造会議、9月スペインバルセロナでの第6回国際鋳造フォーラム、10月北米のディアボーンで第57回アメリカ精密鋳造会議へ参加した。
13. 海外鋳造産業視察団派遣は、5月に中国視察団（3コース合計52名）、11月インド視察団（24名）、3月ドイツ視察団（20名）をそれぞれ派遣した。
14. 展示会では、5月のメタルチェーンに初めて協会ブース（協賛8社）を出展し、2月に政府の支援によりインド国際鋳造展示会に日本館を出展した（出展企業10社）
15. 世界精密鋳造国際会議(WCIC)を平成24年4月に京都で開催することを決定し、精密鋳造関係者による企画委員会、実行委員会を設置して、開催準備を進めた。
16. 公益法人制度改革に伴う当協会の新しい法人格として、一般社団法人（非営利型）を選択し、平成24年度の認可申請を目標に手続きを開始した。
17. 平成23年3月11日に発生した東日本大震災に関して、東北・関東地区の会員企業の被災状況調査、被災後の操業再開状況調査を行った。併せて「東北地方太平洋沖地震に際してのお願い文書」を会員宛に発行した。

Ⅲ. 会議に関する事項

1. 会議に関する事項

本会運営上の基本的な事項及び重要案件を審議決定するため、総会、理事会4回、正副会長会5回、監事会1回、参与会議1回それぞれ開催し、事業の円滑な推進を図った。

(1) 総会

1) 通常総会

平成 22 年 5 月 26 日（水）、機械振興会館に於いて第 6 回通常総会を開催し、平成 21 年度事業報告・同収支決算、22 年度事業計画・同収支予算、任期満了に伴う理事及び監事選任について審議・承認した。

(2) 理事会

第 26 回から第 29 回までの合計 4 回開催し、協会運営に関する重要事項について審議・決定し、事業の推進を図った。

- 1) 第 26 回：平成 22 年 5 月 26 日（水）機械振興会館
- 2) 第 27 回：平成 22 年 10 月 1 日（金）ホテルニューオータニ札幌
- 3) 第 28 回：平成 23 年 1 月 18 日（火）機械振興会館
- 4) 第 29 回：平成 23 年 3 月 29 日（火）機械振興会館

(3) 正副会長会

第 28 回から第 32 回までの合計 5 回開催し、重要案件について審議した。

- 1) 第 28 回：平成 22 年 6 月 9 日（水）機械振興会館
- 2) 第 29 回：平成 22 年 9 月 22 日（水）機械振興会館
- 3) 第 30 回：平成 22 年 12 月 8 日（水）機械振興会館
- 4) 第 31 回：平成 23 年 2 月 17 日（木）機械振興会館
- 5) 拡大正副会長会（臨時）：平成 23 年 3 月 29 日（火）機械振興会館

(4) 監事会

平成 22 年 4 月 16 日（金）機械振興会館に於いて監事会を開催し、平成 21 年度事業報告書、同収支決算書及び財産目録について監査を行なった。

(5) 参与会議

- 1) 第 4 回：平成 22 年 4 月 19 日（月）機械振興会館

(6) 臨時幹部会議

平成 22 年 4 月 19 日（月）機械振興会館に於いて臨時幹部会議を開催し、平成 22 年度協会事業運営方針、環境部会の設置について審議した。

2. 部会に関する事項

(1) 鑄造産業ビジョン推進特別部会

- 1) 鑄造産業ビジョン第 2 期計画として 4 月に作成・公表したアクションプラン 2010 の実施項目について事業内容ごとに実施状況を整理取りまとめ・評価を行い、アクションプラン 2011 を作成した。

2) 部会の活動

第 1 回 平成 23 年 1 月 19 日（水）機械振興会館

(2) 総務部会

1) 総務部会を4回開催し、本会の財務・経理及び組織・運営（他の部会に属するものを除く）に関する事項について審議した。

第16回 平成22年 7月20日（火）機械振興会館

第17回 平成22年 9月17日（金）機械振興会館

第18回 平成22年12月15日（水）機械振興会館

第19回 平成23年 3月 4日（金）機械振興会館

2) 総務委員会を総務部会と合同開催し、平成22年度収支決算見込み等について審議した。

(3) 経営部会

経営部会を4回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討と、会員の企業経営に役立つ情報の提供並びに行事等の企画・立案について審議した。

第19回 平成22年 6月16日（木）高輪和彊館

第20回 平成22年 9月16日（木）機械振興会館

第21回 平成22年12月 3日（金）機械振興会館

第22回 平成23年 2月 8日（火）機械振興会館

(4) 技術部会

技術部会を技術開発委員会と合同で3回開催し、部会の運営に関する基本的、重要な事項についての検討およびサポイン新規案件の抽出、委員会運営等に関する事項について審議を行った。

第1回 平成22年 6月17日（木）機械振興会館

第2回 平成22年10月 5日（火）機械振興会館

第3回 平成23年 2月25日（金）機械振興会館

(5) 非鉄部会

非鉄部会を3回開催し、統合後の非鉄部会の運営方針、鑄造カレッジ非鉄コースの新設ならびに委員会活動に関する事項について審議を行った。

第1回 平成22年 4月15日（木）機械振興会館

第2回 平成22年 9月 8日（水）機械振興会館

第3回 平成23年 2月 2日（水）機械振興会館

(6) 国際部会

国際部会を4回開催し、国際交流、海外視察・調査等に関する事項について審議を行った。また、鑄造関係の国際会議やセミナー参加に対する実行企画立案、海外鑄造団体との関係強化、海外視察団の派遣等を推進した。

第1回 平成22年 6月 3日（木）機械振興会館

第2回 平成22年 9月 1日（水）ミッドランドスクエア（名古屋駅前）

第3回 平成22年12月20日（月）機械振興会館

第4回 平成23年 2月 4日（金）機械振興会館

(7) 中小企業部会

中小企業部会を4回開催し、本協会の中小企業振興に関する事業、組合に関する事業等について審議を行った。

- 第19回 平成22年 7月 9日(金) 高輪和彊館
- 第20回 平成22年 9月 8日(水) 高輪和彊館
- 第21回 平成22年12月13日(月) ANAクラウンズホテル広島
- 第22回 平成23年 2月14日(月) 東京鋳物工業協同組合

(8) 環境部会

環境部会を2回開催し、本協会の環境問題に関する事業等について審議を行った。

- 第1回 平成22年11月24日(水) 機械振興会館
- 第2回 平成23年2月 3日(木) 機械振興会館

IV. 事業活動に関する事項

1. 大会及び講演会・講習会等の開催に関する事項

(1) レアアース代替・削減技術講習会の開催

「鋳造現場におけるレアアース削減対策と今後の需給動向」を演題に(社)日本鋳造工学会と共催によりレアアース代替・削減技術講習会を開催した。内容は、学術的視点による技術講演のほか、大手会員企業によるレアアース削減実験の報告、球状化剤メーカーによるレアアース需給動向に関する情報、新球状化剤の開発状況、パネルディスカッション等、産学一体となったプログラム構成とした。

講習会 平成23年1月26日(水) 建築会館ホール 参加人数 195名

演題	講演者	所属
1. レアアース総合対策とその背景について	森 喜彦	経済産業省非鉄金属課課長補佐 (レアアース総括)
2. 黒鉛は何故、丸くなるのか、それにはMgやREは必要か	中江 秀雄	早稲田大学教授
3. 鋳鉄と希土類元素(RE)	堀江 皓	岩手大学特任教授
4. 球状化剤中のレアアースについて	磯島 正彦	大阪特殊合金(株)東京支店主任
5. 球状化材中のレアアースと接種の効果	中山 英明	(株)アイメタルテクノロジー生産本部技術部門研究開発部研究第2グループ
6. 凝固形態に着目したRE低減およびレス化球状化剤の適用検討	佐藤 高浩	アイシン高丘(株)生技開発部材料開発 T TL
7. RE無し球状化剤適用による球状黒鉛鋳鉄の製造条件見直し	遠藤 誠一	日立金属(株)製造センター鋳鉄グループ技師
8. RE減量球状化剤によるダクタイル鋳鉄への影響	池田 功	東洋電化工業(株)製造本部本部長
9. 大物鋳物におけるRE量と組織の関係	菅野 利猛	(株)木村鋳造所取締役開発部長

10. パネルディスカッション	石原 安興 講師全員	石原技術士事務所所長
-----------------	---------------	------------

(2) 春季講演大会の開催

平成 22 年 5 月 26 日東京にて春季講演会を開催した。

講演会 平成 22 年 5 月 26 日（水）機械振興会館 参加人数 100 名

演 題	講演者	所 属
1. 鑄造産業ビジョン第 2 期計画報告	酒井 英行	副会長
2. 再生可能エネルギーの全量買取制度による鑄造業に与える影響	望月 英克	理事 経営部会委員 (株)スギヤマ 代表取締役社長
3. 亜鉛鋼板の脱亜鉛処理	木崎 勉	トヨタ自動車(株)明知工場 鑄造部スキルド・パートナー
4. 超合金開発の最前線	原田 広史	独立行政法人物質・材料研究機構 超耐熱材料センター センター長

(3) 秋季講演会の開催

平成 22 年 10 月 2 日札幌市にて秋季講演会を開催した。

講演会 平成 22 年 10 月 2 日（土）北海道大学工学部 参加人数 69 名

演 題	講演者	所 属
1. 技術講演 1) 真球人工砂を用いた高流動低温造型プロセスの開発	小川 文幸	旭有機材工業株式会社 樹脂事業部技術部 副参事
2) 極薄肉鑄造技術の自動車用鑄物部品軽量化への応用開発	桃野 正	室蘭工業大学 教授
3) 精密鑄造技術委員会招待講演 Present and future of the investment casting technology	Olabe	前 EICF 会長
2. 特別講演 I（工学会との共催） ものづくりをめぐる政策課題について	都築 直史	経済産業省製造産業局素形材産業室 室長
3. 経営講演 1) 基調講演 環境規制の真実と鑄造業界への影響	武田 邦彦	中部大学総合工学研究所 教授
2) 経営部会活動報告 各種環境規制が鑄造業に与える影響 シミュレーション	望月 英克	理事 経営部会委員 (株)スギヤマ 代表取締役社長
4. 特別講演 II（工学会との共催） アイヌと鉄のおはなし	深澤百合子	東北大学大学院 教授

(4) 新年賀詞交歓会 平成 23 年 1 月 18 日（火）

会員の情報交換及び懇親を目的に、「新年賀詞交歓会」を東京プリンスホテル（港区）に於いて開催した。賀詞交歓会には、行政、学会、関係団体からの招待を含めて 283 名の参加があった。賀詞交歓会に先立って、新春講演会を開催した。

講 師：株式会社小松製作所 取締役会長 坂根正弘氏

演 題：「コマツの経営構造改革 ～強みを磨き、弱みを改革～」

- (5) 平成 22 年度若手経営者全国大会の開催 平成 23 年 2 月 24 日～25 日
平成 23 年 2 月 24 日～25 日関西地区において若手経営者全国大会を開催し、講演会、情報交換会、工場見学会を実施した。

1) 講演会 平成 23 年 2 月 24 日 (木) ホテル日航姫路、参加人数 84 名

演 題	講演者	所 属
「若手経営者のあり方」	秋岡 義典	若手経営者委員会 委員長
中小企業部会長・副会長 挨拶 (協会の取組について)	酒井 英行	中小企業部会部会長・副会長
「素形材産業はどのように成長して いくのか」	金子 敬一	経済産業省 素形材産業室 企画調整担当 課長補佐
「鑄鉄の改革、新たな取り組み鑄鉄と してのがんばり」	堀田 一之	虹技(株) 代表取締役社長
「環境規制の真実と鑄造業界への影 響」	武田 邦彦	中部大学 総合工学研究所 教授

2) 工場見学会 平成 23 年 2 月 25 日 (金)

虹技(株) 東工場、(株)神戸製鋼所 高砂製作所 見学。参加人数 43 名

(6) 鑄造技術研修会

鑄造の基礎技術を、現場作業者を対象に 3 回開催した。

第 1 回 平成 22 年 6 月 15 日 (火) 名古屋 参加者 32 名

第 2 回 平成 22 年 12 月 8 日 (水) 大阪 参加者 32 名

第 3 回 平成 23 年 3 月 8 日 (火) 東京 参加者 16 名

2. 鑄造業が国際競争力を発揮できる施策への対応

(1) 再生エネルギー全量買取制度に対する負担軽減の要望

買取エネルギー全量買取制度の負担試算シートを作成し、会員企業への意識啓蒙を図ったほか、再生エネルギー全量買取制度、環境税関連の政府委員会への参加し、進捗状況を逐次、会員へ情報提供した。春季・秋季大会にて会員企業への同制度に対する報告会を実施した。また、他団体 ((社)日本鉄鋼連盟、日本ソーダ工業会) と連携し、12 月に経済産業省政務三役、民主党へ共同要望書を提出した。

そのほか、電力問題に対するアンケートを 12 月に実施し、業界実情について政府へ陳情を行った。

(2) 原材料・副資材高騰への対応

鑄物銑の値上がりに対応して「原材料高騰に対するお願い文書」を 4、6 月に作成し、会員へ発行したほか、レアアース問題に対する緊急アンケートを実施し、「レアアース入手困難に対するお願い文書」を 11 月に作成し、会員へ発行、レアアース講習会平成 23 年 1 月に実施し 195 名の参加があった。

また、「原材料高騰に対するお願い文書」を 4 月の価格改定時期に合わせ平成 23 年 2 月に作成し、会員へ発行した。

(3) M&A や転廃業による競争力の強化

事業承継、M&A に関する講習会に参加したほか、中小企業基盤整備機構、日本政策金融公庫と連携し、6月に講演会を実施した。

(4) セーフティネット保証対応

平成23年3月31日に期限切れとなるセーフティネット保証（景気緊急対応保証）について、経済産業省へ延長申請をし、「銑鉄鋳物製造業」が業種指定され、会員企業へ周知した。

(5) 東日本大震災への対応

被災ならびに計画停電による影響についてユーザーへのお願い文書を発行したほか、震災に対する中小企業の政府支援ならびに雇用調整助成金要件緩和について周知した。

3. 鋳造業の経営改善・振興対策に関する事項

(1) 若手経営者委員会による普及活動

原価計算モデル普及のための原価モデルソフト購入者を対象とした研修会を4回開催した。

第2回 平成22年4月20日（火）愛知県鋳物工業協同組合 参加者 10名

第3回 平成22年4月28日（金）静岡県産学交流センター 参加者 10名

第4回 平成22年7月30日（金）大阪 参加者 11名

第5回 平成22年11月6日（土）岡山 参加者 9名

(2) 量産銑鉄鋳物委員会の活動

量産銑鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第9回 平成22年6月4日（金）高輪和彊館 参加者 23名

第10回 平成22年9月17日（金）名古屋 参加者 23名

第11回 平成22年12月16日（木）高輪和彊館 参加者 25名

(3) 非量産銑鉄鋳物委員会の活動

非量産銑鉄鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第7回 平成22年6月4日（金）高輪和彊館 参加者 24名

第8回 平成22年10月22日（金）名古屋 参加者 18名

第9回 平成22年2月4日（金）大阪 参加者 18名

(4) 精密鋳造経営委員会の活動

精密鋳造会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に4回開催した。

第20回 平成22年6月23日（水）機械振興会館 参加者 11名

第21回 平成22年10月6日（水）機械振興会館 参加者 12名

第22回 平成22年12月2日（木）機械振興会館 参加者 12名

第23回 平成23年3月10日（木）機械振興会館 参加者 10名

(5) 鋳鋼鋳物委員会の活動

鋳鋼鋳物会社による市場情報、経営状況、経営課題等の情報交換を目的に3回開催した。

第6回 平成22年 7月9日(金) 高輪和彊館 参加者 11名

第7回 平成22年 10月27日(水) 岡山(玉野) 参加者 19名

第8回 平成23年 2月18日(金) 高輪和彊館 参加者 17名

(6) 非鉄部会情報交換会の活動

非鉄会員企業の連絡を密にし、振興を図るため情報交換会を目的に2回開催した。

第1回 平成22年 4月15日(木) 機械振興会館 参加者 60名

第2回 交換会 平成22年 11月17日(木) 名古屋栄東急イン 参加者 51名

工場見学 平成22年 11月18日(金) アイソ高丘(株)、ヒロセ合金(株) 参加者 39名

4. 調査研究に関する事項

(1) 市場調査委員会の活動

第14回 平成22年 9月16日(木) 機械振興会館 参加者 3名

(2) 調査項目

①製品別生産量・生産金額、都道府県別生産量・生産金額、従業員数の統計調査

②原材料、副資材価格動向調査

③景況調査

④倒産、転業、廃業、休業調査

⑤需要予測調査

⑥景況悪化に伴う生産動向、雇用状況、資金繰り状況の調査

⑦ユーザー業界の生産動向

5. 鋳造業に係る施策・税制等の要望・陳情に関する事項

平成22年11月から12月に民主党日本鋳造産業振興議員連盟、自由民主党鋳物産業振興議員連盟に対して、以下の要望を行った。

I. 施策関係

1. 再生可能エネルギー全量買取制度、地球温暖化対策税(環境税)の軽減負担

2. 派遣法の継続

3. 円高対策

II. 税制関係

1. 法人税の引き下げ等

2. 中小法人及び中小企業組合の軽減税率を11%に引き下げ及び恒久化

3. 環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)への参加要請

6. 中小企業振興に関する事項

(1) 組合代表者会の活動

- 1) 第10回 平成22年 6月17日(木) 高輪和彊館
- 2) 第11回 平成22年 9月 8日(水) 高輪和彊館
- 3) 第12回 平成22年12月13日(月) ANAクラウンズホテル広島

(2) 組合事務局長会の活動

- 1) 第13回 平成22年 6月17日(木) 高輪和彊館 (代表者会合同)
- 2) 第14回 平成22年 9月 8日(水) 高輪和彊館 (代表者会合同)
- 3) 第15回 平成22年11月11日(木)～12日(金) 京都

(3) 若手経営者委員会の活動

若手後継者委員会を若手経営者委員会に変更して3回開催した。

- 1) 第19回 平成22年 6月18日(金) 高輪和彊館
- 2) 第20回 平成22年 9月 3日(金)～4日(土) 石川
- 3) 第21回 平成22年12月17日(金) 高輪和彊館

7. 技術開発に関する事項

(1) 鋳型技術委員会(委員長 渡辺一郎 テーマ: 鋳型技術の新規テーマの早期発掘)

- 1) 第1回 平成22年 6月25日(金) コンワビル 参加者28名
- 2) 第2回 平成22年10月 8日(金) 機械振興会館 参加者27名
- 3) 第3回 平成22年12月17日(金) ニュー新橋ビル 参加者21名

(2) 球状黒鉛鋳鉄の歩留り向上研究委員会(委員長 山田 聡 テーマ: 歩留まりの極限化)

- 1) 第1回 平成22年 6月16日(水) 機械振興会館 参加者17名
- 2) 第2回 平成22年10月13日(水) 榑東海鋳造所 参加者17名
- 3) 第3回 平成22年12月15日(水) 機械振興会館 参加者14名

(3) キュポラ操業研究委員会(委員長 村田康博 テーマ: 効率的なキュポラ操業)

- 1) 第1回 平成22年 4月15日(木) 機械振興会館 参加者9人
- 2) 第2回 平成22年 7月16日(金) 機械振興会館 参加者11人
- 3) 第3回 平成22年10月12日(火) 機械振興会館 参加者13名
- 4) 第4回 平成23年 1月19日(水) ニュー新橋ビル 参加者12名

(4) 電気炉操業研究委員会(委員長 菅野利猛 テーマ: 黒鉛化度によるFCとFCDの溶湯性状の管理)

- 1) 第1回 平成22年 6月11日(金) 機械振興会館 参加者25人
- 2) 第2回 平成22年 9月21日(火) 機械振興会館 参加者23人
- 3) 第3回 平成22年12月14日(火) 機械振興会館 参加者25人
- 4) 第4回 平成23年 2月21日(月) 機械振興会館 参加者25人

- (5) 精密鑄造技術委員会（委員長 那須征雄 テーマ：精密鑄造用ワックスの規格化及びジルコンサンド代替鑄型の実用化拡大）

（社）日本鑄造工学会精密鑄造部会との共同開催

- 1) 第1回 平成22年 5月28日（金）ニュー新橋ビル 参加者 25名
- 2) 第2回 平成22年 8月27日（金）ニュー新橋ビル 参加者 23名
- 3) 第3回 平成22年 11月19日（金）ニュー新橋ビル 参加者 22名
- 4) 第4回 平成23年 2月18日（金）ニュー新橋ビル 参加者 27名

- (6) 人工砂委員会（委員長 市野育男）

人工砂の導入を検討している鑄造工場に対して、公平で正確な情報を提供し、人工砂導入の橋渡しを行うことを目的に、2年間の期限付委員会を開催。積極的に情報収集を図る。

- 第1回 平成22年 9月13日（月）機械振興会館 参加者 27名（含む事務局3名）
- 分科会 平成22年 10月20日（水）株木村鑄造所 参加者 25名（含む事務局1名）
- 分科会 平成22年 11月17日（水）株マシン 参加者 19名（含む事務局1名）
- 第2回 平成22年 12月16日（木）機械振興会館 参加者 24名（含む事務局3名）
- 分科会 平成23年 2月23日（水）株シンコー 参加者 19名（含む事務局21名）

- (7) 軽合金委員会（委員長 田島正明）

- 1) 第1回 平成22年 7月23日（金）川口総合文化センター 参加者 30名
- 2) 第2回 平成22年 11月26日（金）川口総合文化センター 参加者 21名
- 3) 第3回 平成23年 3月 4日（金）川口総合文化センター 参加者 22名

- (8) 銅合金技術委員会（委員長 岡根利光）

- 1) 第1回 平成22年 6月 2日（水）機械振興会館 参加者 33名
- 2) 第2回 平成22年 10月 22日（金）シェア会議室@東京駅八重洲口 参加者 34名
- 3) 第3回 平成23年 2月 1日（火）機械振興会館 参加者 39名

- a) 銅合金分科会（リーダー 小館貞治）

- 1) 第1回 平成22年 7月 8日（木）～9日（金）Jマテ.カッパープロダクツ(株)

- b) 銅合金分科会（リーダー 山下庄平）

- 1) 第1回 平成22年 7月 16日（金）(株)トタニ合金 参加者 8名

- c) 銅合金分科会（リーダー 奥村鐘春）

- 1) 第1回 平成22年 4月 27日（火）機械振興会館 参加者 11名
- 2) 第2回 平成22年 7月 9日（火）機械振興会館 参加者 11名
- 3) 第3回 平成22年 12月 15日（水）機械振興会館 参加者 10名
- 4) 第4回 平成23年 3月 2日（水）機械振興会館 参加者 10名

- (9) 戦略的基盤技術高度化支援事業の実施

戦略的基盤技術高度化支援事業として、平成22年度に採択された1件を加え、9件の研究開発を戦略的基盤技術開発室が事務局として、以下の通り実施した。

- 1) アルミ基複合材鋳物のハイブリッド砂型低圧鋳造法の開発
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（3 年目）
 委託金額：22,323,000 円
- 2) 高灰分コークス使用時における高生産性操業技術の開発
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（2 年目）
 委託金額：29,623,650 円
- 3) ラピッドプロトタイピングによる精密鋳造用鋳型及び中子の迅速造型技術の開発
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（2 年目）
 委託金額：29,998,977 円
- 4) 超細鋳抜き孔のためのカーボン中子の開発
 契約期間：平成 22 年 8 月 3 日～平成 23 年 3 月 31 日（1 年目）
 委託金額：44,998,800 円
- 5) 鋳物製造における劣悪作業の作業効率を向上させる革新的なパワーアシスト装置の開発の補完研究
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 6) 環境対応型非鉄金属鋳造技術に関する研究開発の補完研究（旧日非協受託分）
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 7) 鋳鉄溶湯の不純物除去と無害化技術の開発の補完研究
 期間：平成 21 年 12 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 8) 精密鋳造品高度化に向けた造型技術の開発の補完研究
 期間：平成 21 年 12 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日
- 9) 真球人工砂を用いた高流動低温造型プロセスの開発の補完研究
 契約期間：平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日（以後更新予定）

8.環境に関する事項

(1)環境部会の設置

平成 22 年 10 月に、アクションプラン 2010 に掲げた「環境とエネルギー対策の強化」に対応するために環境部会を設置し、技術部会の一分野として取り組んできた環境問題を専門的に対応することとした。このため、環境対策委員会を技術部会から環境部会へ移管した。

(2) CO₂削減推進委員会（旧環境対策委員会）の活動

環境対策委員会は技術部会から新設の環境部会へ移動した。ただし、委員会の名称を「CO₂削減推進委員会」とし、CO₂排出量削減のための活動を行った。

○活動内容としては、

- ①CO₂排出量のアンケート調査とその取りまとめの継続
- ②省エネ提案の推進および鋳造ジャーナルへの掲載
- ③省エネに関する情報を収集（展示会視察、工場視察及び専門家の講演）し、広く会員企

業に公開する。

④その他

- 1) 第1回 平成22年 7月 2日(金) 機械振興会館 参加者 12名
- 2) 第2回 平成22年 9月 7日(火) 機械振興会館 参加者 10名
- 3) 第3回 平成22年 12月 21日(火) 機械振興会館 参加者 15名
- 4) 第4回 平成23年 2月 8日(火) 東京ビッグサイト 参加者 8名

(3) ゼロ・エミッション化

ゼロ・エミッション化については、廃棄物の定義の明確化、各社(各組合)の現在の対応策の把握、都道府県別の処理基準の把握するためのアンケートを委員間で実施した。

(4) クリーンファクトリー化

クリーンファクトリー化については、クリーンファクトリーの定義の明確化、労働基準監督署が実施する作業環境測定等に関するアンケートを委員間で実施した。

9. 指導・教育・人材育成に関する事項

(1) 鑄造カレッジ企画運営委員会の活動

- 1) 第6回 平成22年 5月 18日(火) 機械振興会館

(2) 鑄造カレッジ企画運営委員会と日本鑄造工学会人材育成委員会との合同委員会の活動

- 1) 第12回 平成22年 5月 18日(火) 機械振興会館
- 2) 第13回 平成22年 11月 4日(木) 機械振興会館
- 3) 第14回 平成23年 2月 23日(水) 機械振興会館

(3) 鑄造カレッジ非鉄コース検討委員会の活動

- 1) 鑄造カレッジ非鉄コースカリキュラムWG

- 第1回 平成22年 6月 22日(火) 埼玉県産業技術総合センター
- 第2回 平成22年 11月 24日(水) 埼玉県産業技術総合センター
- 第3回 平成22年 12月 20日(月) 東京都立産業技術研究センター

(4) 鑄造カレッジ現地責任者会議の活動

- 1) 第8回 平成22年 8月 10日(火) 機械振興会館
- 2) 第9回 平成22年 12月 22日(水) 高輪和彊館

(5) 鑄造カレッジテキスト改訂委員会の活動

- 1) 第1回 平成22年 10月 15日(金) 機械振興会館
- 2) 第2回 平成23年 1月 19日(水) 機械振興会館
- 3) 第3回 平成23年 3月 22日(火) 機械振興会館

(6) 鑄造カレッジの開催・実施

- 1) 平成22年5月鑄造技士認定授与式を開催し、63名の鑄造技士を認定した。
- 2) 関東、中部、中国四国の3地区において日本鑄造工学会との連携の下に鑄造カレッジを開催し、座学・インターンシップを実施して受講生82名全員が修了した。

(7) 新人教育研修プログラムの開催・実施

厚生労働省より委託を受け、ジョブ・カード制度普及のためのモデル事業を実施し、新人教育のための社内・社外教育カリキュラム、社内教育（実習）の評価表の作成等を行った。
この成果を基に、30名の受講生で教育機関6ヶ月間の新人教育研修プログラムを平成22年4月から9月まで実施した。

1) 新人教育研修プログラム委員会

- 第1回 平成22年 7月27日（火）機械振興会館
- 第2回 平成22年10月27日（水）機械振興会館
- 第3回 平成22年12月16日（木）機械振興会館

2) 新人教育研修プログラム委員会WG（鉄）

- 第1回 平成22年 6月28日（月）機械振興会館
- 第2回 平成22年 7月 6日（火）㈱田島軽金属
- 第3回 平成22年 7月13日（火）讃岐鋳造鉄工㈱
- 第4回 平成22年10月14日（木）機械振興会館
- 第5回 平成22年11月30日（火）機械振興会館

3) 新人教育研修プログラム委員会WG（非鉄）

- 第1回 平成22年 8月30日（月）機械振興会館
- 第2回 平成22年10月15日（金）機械振興会館
- 第3回 平成22年12月 9日（木）機械振興会館
- 第4回 平成23年 2月 7日（月）機械振興会館
- 第5回 平成23年 3月 1日（火）機械振興会館

(8) 技術普及委員会の活動（委員長 鈴木伸二 鋳造技術研修会の講義内容に関する審議）

鋳造技術研修会の講義内容の調整、Q&Aの回答案作成を行った。

鋳造ジャーナル掲載のQ&Aの原稿作成を行った。

- 1) 第1回 平成22年 5月18日（火）機械振興会館
- 2) 第2回 平成22年 6月 4日（金）機械振興会館
- 3) 第3回 平成22年11月15日（月）機械振興会館
- 4) 第4回 平成22年11月29日（月）機械振興会館
- 5) 第5回 平成23年 2月14日（月）機械振興会館
- 6) 第6回 平成23年 3月 1日（火）機械振興会館

10. 標準化に関する事項

(1) 標準化委員会の活動（委員長 小室純一 ISOおよびJISに関する審議）

- 1) 第1回 平成22年 4月22日（木）機械振興会館 参加者6人
第1回ISO/TC25国内審議委員会と合同開催

- 2) 第2回 平成22年 7月21日(水) 機械振興会館 参加者5人
第2回 ISO/TC25 国内審議委員会と合同開催
 - 3) 第3回 平成22年11月 5日(金) 機械振興会館 参加者5人
 - 4) 第4回 平成23年 1月28日(金) 機械振興会館 参加者4人
- (2) ISO/TC25 国内審議委員会の活動(委員長 清水一道 ISO/TC25 の規格改定等に関する審議)
- 1) 第1回 平成22年 4月22日(木) 日本鑄造協会会議室 参加者10名
 - 2) 平成22年6月10日～11日にイギリスのロンドンで開催された第13回 ISO/TC25 国際会議に出席し、WG15 の活動に参加し、「鑄造欠陥集」に日本語、韓国語、中国語による統一表の作成を承認させた。
 - 3) 第2回 平成22年 7月21日(水) 機械振興会館 参加者10名

11. 知的財産権の保護及び推進に関する事項

鑄造技術に関する特許情報の収集に努め、鑄造ジャーナルに科学技術文献速報、特許情報を毎月掲載した。

12. 広報、普及啓蒙及び情報資料の提供に関する事項

(1) 広報事業

- 1) 編集委員会を毎月開催し、機関誌「鑄造ジャーナル」を毎月、12回発行した。
- 2) Eメールを活用し、各種情報の迅速な提供を行った。また、協会ホームページに会員専用ページを開設し、情報発信の強化を行った。
- 3) 新聞・雑誌等に業界 PR 記事の提供
報道機関に対する広報活動として、日本経済新聞、日刊工業新聞、鉄鋼新聞他の専門紙の担当記者へのプレスリリースを行い、資料の提供等取材に協力。
- 4) 需要業界における各種調査研究資料の提供
- 5) 経済産業省等関係官庁からの公報・情報収集活動と会員への提供
- 6) その他、業界発展のための広報・情報活動

(2) 普及啓蒙事業

- 1) 経営、技術および海外情報に関する相談業務
- 2) 新技術開発・新製品開発に関する紹介
- 3) 小中高生の鑄物工場見学受け入れ、鑄物教室開催等

(3) 情報の提供

- 1) 法律、制度並びに経営、技術、労働に関する情報の提供
- 2) 会員(賛助会員を含む)に関する情報の提供
- 3) 内外の関係情報の提供

13. 国際交流に関する事項

(1) 海外鑄造業界との交流と情報交換

(a) 第 27 回欧州精密鑄造会議への代表団派遣

5月16日から5月19日までポーランドのクラコフで開催された第27回欧州精密鑄造会議（EICF）に日本鑄造協会から中谷会長ほか代表団6名を派遣。

(b) 韓国鑄造工学会講演大会への参加

7月7日から7月9日まで、韓国三千浦（サムチョンポ）で開催された鑄造工学会講演大会へ中谷会長と角田専務理事が参加し、中谷会長が「2009年日本の鑄造産業の現状」という表題で講演を行った。

(c) 第6回国際鑄造フォーラム（6th IFF）に参加

9月10日から9月11日まで、スペインのバルセロナで開催されたThe 6th International Foundry Forumへ中谷会長と角田専務理事が参加し、中谷会長が「2009年日本の鑄造産業の現状」という表題で講演を実施。

(d) 第57回米国精密鑄造会議（ICI）に参加

10月10日（日）～10月13日（水）に米国ディアボーンで開催された第57回ICI大会に参加し、技術情報を収集及び2012年世界精密鑄造大会の開催推進状況を報告。

(2) 会員への情報収集機会の場の提供

①視察団の派遣

(a) 第1回アジア鑄造フォーラムとメタルチャイナ2010視察団派遣

5月10日に開催の第1回アジア鑄造フォーラムと5月11日から14日まで開催されたメタルチャイナ2010に中谷会長ほか15名の視察団を派遣。

(b) 中国鑄造産業視察団の派遣

5月12日から5月21日までの期間で総勢37名の視察団を派遣。

メタルチャイナ2010の視察および中国瀋陽および大連地域の鑄造工場を視察。鑄鉄系と非鉄系に分かれ、合わせて12工場を視察。

(c) 第1回JFS/インド自動車部品鑄造工場視察団を派遣

11月25日（木）から12月4日（土）までに24名の視察団員が、インドの自動車部品鑄造工場を視察。

(d) 第2次JFS/ドイツ新鋭鑄造工場視察団を派遣

2月27日～3月6日にHeger Ferrit社などドイツの新鋭鑄造工場6社の工場視察団を派遣した。参加者21名（事務局1名、通訳1名を含む）。

(e) 経済産業省素形材産業室が企画した素形材産業のアジアにおける海外交流促進のための海外ミッション派遣事業に会員企業が参加した

11月 ベトナムミッションへ2社

② 国際セミナーの実施

(a) WCIC2012 開催実行状況

- 1) 事前準備委員会 6月1日 機械振興会館 参加者 13名
- 2) 第1回企画委員会 6月9日 機械振興会館 参加者 13名
- 3) 第2回企画委員会 7月5日 機械振興会館 参加者 13名
- 4) 第1回実行委員会 7月8日 機械振興会館 参加者 13名
- 5) 第2回実行委員会 8月3日 機械振興会館 参加者 21名
- 6) 第3回実行委員会 9月3日 機械振興会館 参加者 21名
- 7) 第4回実行委員会 10月4日 機械振興会館 参加者 19名
- 8) 第5回実行委員会 12月7日 機械振興会館 参加者 16名

③ 重要国際会議への参加、展示会への出品の支援

(a) メタルチャイナ 2010 へ日本鑄造協会の展示ブースを開設

5月11日から5月14日まで、北京の国際展示場で開催されたメタルチャイナ 2010 に展示ブースを開設。日本鑄造機械工業会会員企業 6社のパンフレットおよび日本鑄造協会会員企業の 8社のパネル展示を実施。

(b) インドの鑄造展示会 IFEX2011 へ日本館の展示ブースを開設

2月11日(金)から2月13日(日)まで、日本政府の支援によりインドのチャンデイーガル市 Parade Ground で開催された IFEX2011 に日本館として展示ブースを開設。日本鑄造機械工業会および日本鑄造協会会員企業の 11社のパネル、装置及び製品の展示を実施。

14. 表彰に関する事項

(1) 協会賞の募集・選考・表彰

日本鑄造協会の協会賞として、12月に協会功労賞、経営改善賞、技術賞、技術開発賞と小林英三賞、滝沢賞を募集、3月に選考を行った。また、平成 21 年度に決定した受賞者の表彰式を 5月の総会後に開催した。

(2) 協会功労賞

- ①松原 潔氏 (大阪鑄鉄工業組合理事長)
- ②富田健夫氏 (愛知県鑄物工業協同組合理事長)
- ③柿坂昭則氏 (㈱トウチュウ顧問)
- ④佐藤兼弘氏 (草野産業㈱技術顧問)

(3) 技術賞

- ①前田貞夫氏 (㈱前田シェルサービス代表取締役会長)
- ②市野育男氏 (㈱木村鑄造所取締役本社工場工場長)
- ③米田隆志氏 (㈱ヨネダアドキャスト代表取締役社長)
- ④加川正純氏 (㈱日立メタルプレシジョン技師)

15. 会員の催物に対する協力及び協賛に関する事項

- (1) 経営、技術、労務関係、教育図書、文献、視聴覚教育資料の斡旋
- (2) 工場視察、見学会の斡旋
- (3) 記念行事、催物の表彰状、感謝状の授与
- (4) 会員主催の行事、催物等への協賛及び参加

16. その他本協会の目的を達成するために必要な事項

- (1) 以上の他、定款の目的に沿った各種事業を行った。

VI. 支部・地域活動、地方組織に関する事項

1. 中部支部活動

- (1) 支部総会を6月10日に開催（出席76名）、役員会を6月、11月、3月の3回開催、本部活動報告を役員会に併せて3回実施、講演会は総会時の講演会1回（参加者76名）、工学会への協賛講演会を5回実施。
- (2) 総会時の中谷会長講演、工場見学会（参加者76名）、地区外工場見学会は、平成21年9月10日（木）に、滋賀地区の工場見学（参加者70名）、工学会協賛の見学会を静岡地区（参加者89名）で実施。工学会協賛の講習会を2回（94名、75名）開催。

2. その他の地域活動

- (1) 関東地区
 - 1) 8月11日（水）第4回川口鋳物工業協同組合主催の「川口鋳物の日」式典に出席
 - 2) 11月17日（水）埼玉県主催の埼玉県鋳造技術コンクールの表彰式に協会賞を贈呈
- (2) 四国地区
 - 1) 6月24日（木）四国地区の例会にて、中谷会長による講演を実施。
- (3) 東海北陸地区
 - 1) 6月28日（月）東海北陸鋳物工業会の例会にて、中谷会長による講演を実施。
 - 2) 3月1日（木）北陸地区協議会の例会にて、中谷会長による講演を実施。
- (4) 京都地区
 - 1) 7月21日（水）京都府鋳物工業協同組合にて、中谷会長による講演を実施。
- (5) 九州地区
 - 1) 8月17日（火）全九州銑鉄鋳物工業組合にて、中谷会長による講演を実施。

VII. 関係官庁への協力に関する事項

- (1) 産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」

経済産業省の産学による人材育成課題と解決方法を探る産学人材育成パートナーシップ「機械分科会」に本会の木村副会長が委員として参加、協力した。

(2) 中央技能検定委員の推薦

中央職業能力開発協会に対し、職種「鑄造（特級）」に3名、「金属溶解（鑄鉄キュボラ溶解作業）」に5名、「金属溶解（軽合金反射炉溶解作業）」に1名の委員を推薦した。

VIII. 関係団体との交流に関する事項

(1) 素形材関連団体連絡会・鑄団連

1) 経済産業省と素形材関係団体間の連絡の円滑化、情報交換を目的とした「素形材関係団体連絡会」に角田専務理事が毎回出席した。

2) 鑄団連総会に出席した。

(2) 鑄物関連団体への協力

1) (社) 日本鑄造工学会の春・秋大会、各支部におけるセミナー、工場見学会を後援。

2) (財) 素形材センターの素形材月間事業への後援。

3) ダイカストマシン工業会主催のセミナーへの後援他。

4) 日本鑄物中子工業会の総会に出席

IX. 会員及び組織に関する事項

1. 組織拡充強化に関する事項

(1) 鑄鋼、軽合金企業を対象とした協会活動案内資料を作成し、未加入の企業、組合の加入を促進した。

(2) 本協会の目的・事業に協力いただく賛助会員の加入を促進した。

2. 会員及び組織に関する事項

(1) 正会員及び賛助会員（平成23年3月31日現在）

1) 法人正会員 371社

2) 団体正会員 39組合（586社）

3) 賛助会員 38社